

はりま

姫路支局
〒670-0015
姫路市総社本町16
☎ 079(223)0434
fax 079(224)0032
加古川支局
☎ 079(422)2045

読者の声や申し込み
お問い合わせ先
0120-33-0843
(7:00~21:00)

購読・配達のご用は
加古川 079(425)3251
小野 0794(62)5678
西脇 0795(23)8200
高砂 079(442)0836
姫路 079(282)3000
相生 0791(22)7666
たつの 0791(63)3550
広告(土日祝除く)
神戸 078(321)2424
折り込み広告は
姫路 079(280)9454



橋の手すりに足かけた女性

陸上部では、400メートルの第2走者と第3走者。県立加古川北高校の加納彩絵さん(3年)と内田菜穂さん(2年)は、仲良しの先輩と後輩だ。

7月下旬、この日は内田さんの17歳の誕生日だった。学



全力疾走 命つないだ

加古川北高 加納さん・内田さん「のじぎく賞」

校帰りに、リレーのメンバー4人でケーキを食べて、お祝いをした。

その帰り道だった。

午後6時ごろ、2人は加古川市内の橋を自転車で通った。橋の真ん中にさしかかると、女性が橋の上から川をのぞき込んでいた。

大学生ぐらいに見えた。表情は、ひどく落ち込んでいた。

「大丈夫かな。いったんは通り過ぎた。でも、なんか胸騒ぎがする。信号待ちをしている時も、振り返って女性を見つめた。

信号が青に変わろうとした時。女性がふいに、左足を橋の手すりにかけた。

加納さんは自転車を道端に止め、駆け出した。内田さんも全力で走った。

橋の真ん中までは約100メートル。加納さんは女性の両肩をさす。加納さんは女性の両肩をさす。

県立加古川北高校の加納彩絵さん(右)と内田菜穂さん(左)が加古川市

両手で持ち、手すりに乗った体をくっつき歩道側に引き寄せた。地面に大粒の涙を落とす女性の背中を無言でさすった。

数分後、「大丈夫、落ち着きました」と女性。加納さんは、訳を聞いてみた。高校2年生だった。恋愛で悩んでいたことを打ち明けてくれた。

内田さんが110番通報し、駆けつけた加古川署員が保護してくれた。

リレーで磨いた走力と連携によって、人命を救助した2人。1日、県から「のじぎく賞」が贈られた。

「これからも困っている人がいたら声をかけたい」と加納さん。内田さんは「1人だったら間に合わなかった。先輩のようにとっさに動ける人になりたい」。

夏の大会では賞状に届かなかったけれど、思わぬ形でもらえた。2人は、晴れやかな表情だった。(岩本修弥)

不安の終わりが見えない、そんな今だから。「ええなあ！」と思わずつぶやく、前向きな話題を随時お届けします。